

復活 (1934)

WE LIVE AGAIN

メディア 映画

ジャンル

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 82分

初公開日 1935/06

公開情報 劇場公開

【解説】

トルストイの長編をただハリウッド流になぞっただけの作品で、ヒロイン・カチューシャを演じるゴールドウィン秘蔵っ子のA・ステンは、さすがにロシア出身だけあって、あどけない娘時代の感じはうまく出しているが、長じて、女の苦汁を舐めてからの芝居に見るものがない。汚れても踏まれても気高さを失わないはずの女が、やたら安っぽいのである。脚本にはP・スタージェスが参加しており、田舎に隠居した伯母姉妹を訪ねる公爵ドミトリイがすっかり娘らしくなった女中カチューシャに恋をし、ひと夏をずっと一緒に過ごすという前段の伸びやかな調子には、彼の貢献も大きいのではないかと思う。が、志高い自由主義者の青年公爵がすっかり貴族社会の塵芥に塗れて帰り、カチューシャを傷つけて去っていき、結果、妊娠して産んだ子を早々に亡くしてしまう彼女ーという中段の展開を適当に流してしまって、二人の愛情が“復活”する、後段のカチューシャが巻き込まれた殺人事件の裁判をめぐる描写が著しく説得力を欠く。F・マーチもオーバー・アクトで、ただでさえソープ・オペラ調の作品をよけい醜くしている。とにかく、ダイジェストのしすぎも考えものである。

【クレジット】

| | | |
|----|----------------|------------------|
| 監督 | ルーベン・マムーリアン | Rouben Mamoulian |
| 製作 | サミュエル・ゴールドウィン | Samuel Goldwyn |
| | ルーベン・マムーリアン | Rouben Mamoulian |
| 原作 | L・N・トルストイ | L.N. Tolstoy |
| 脚本 | プレストン・スタージェス | Preston Sturges |
| | マックスウェル・アンダーソン | Maxwell Anderson |
| | レオナルド・プラスキンズ | |
| 撮影 | グレッグ・トーランド | Gregg Toland |
| 音楽 | アルフレッド・ニューマン | Alfred Newman |
| 出演 | フレドリック・マーチ | Fredric March |
| | アンナ・ステン | Anna Sten |
| | ジェーン・バクスター | Jane Baxter |